

Newsletter

2014 | 秋 |

特定非営利活動法人ジェン
Vol.58

JEN
Japan Emergency NGO



一人ひとりの
学びと成長と。

「これからは、共に平和な社会を
築いてゆきましょう。」

今日はそのスタートです」

支援活動が終わる日に

JENから現地の人へ贈る

はなむけの言葉です。

JENは今年、

設立20周年を迎えました。

これからも人びとの

自立と平和を目指します。

JENでの活動を通して、
感じたこと、出会った人、直面した困難。
現地スタッフに聞いてみました。

スタッフへの3つの質問! Q1:好きな食べ物? Q2:休日の過ごし方? Q3:座右の銘(モットー)は?

20周年記念!

JEN×私のストーリー

Story of JEN and me

パキスタン

カシミールでの支援活動は 一生の思い出です

ナヴィド・シャザッド

Q1:魚のピリヤニ(スパイスなピラフ) Q2:友達や家族とピクニックやパーティー
Q3:どんな状況でも、幸せを分かちあう

私がJENに入ったのは2006年。初めての仕事は2005年に起きた、パキスタン大地震の緊急復興支援活動でした。
私は被災した学校の再建や防災教育支援などを担当し、社会で最も厳しい状況にある人びとを支えるための活動を行いました。2008年11月にカシミールでの活動を終え、完全に撤退する日まで携わりました。活動が終了するその日まで、自分たちがどの程度現地の人びとの役に立てたのか、実感がありませんでした。しかし最後の日、地域の人たちに撤退することを伝えると、彼らは涙を浮かべながら、「またカシミールで他の活動をしてほしい」と言いました。その時ようやく、私はJENが地元の人びとにどれほど必要とされていたのかを実感する事ができました。カシミールでの経験は、私にとって一生の思い出です。その後、私は時、別の組織で働き、2013年以降再びJENのイスラマバード事務所で国内避難民支援に従事しています。JENは自分を成長させてくれた親のような存在です。私は、活動を通して、新しい文化、伝統や価値観などに触れています。私とJENの人生の旅が、これからも続いていくことを願っています。



地震のメカニズムを伝えるワークショップにて。



長老や村の人たちとお茶をくみ交わす時間も大切。

スリランカ

活動を通して得た学びが、 自信につながっています

ラジャラントナム ムクンダン

Q1:イダリー(米粉の蒸しパン) Q2:家族と過ごす家庭教師のボランティア
Q3:エコフレンドリーで自立した人生

私は、ラジャラントナムムクンダンと言います。今年40歳になり、2010年からプロジェクトオフィサーとしてJENで勤務しています。今は北部ワウニア県の借家で妻と娘二人と暮らしていますが、私自身も実は未だに国内避難民です。
JENは北部で2009年6月以降、キャンプに避難する紛争避難民を対象に緊急支援を開始し、2011年にはムライティブ県の帰還地で帰還民のための仮設住宅を建設しました。当時この地域は入域を許可されたばかりで、紛争の爪痕が色濃く残っていました。建設資材を購入できる店すらなく、破壊された道、逃げるために置き去りにされた車、生活用品などが散乱していました。その上、雨季で雨が降りやまず、治安も不安定な中で、時折の晴れ間に建設作業を進めるのは本当に大変でした。この状況を打破するために、私たちは繰り返し会議と、計画の見直しを行いました。事業を終え、現地の関係機関から高い評価を頂いた時は本当に嬉しかったです。これらは3年経った今も大切に使用されています。他にもたくさん学びがあります。こうして活動を通して多くを学べる事は、私にとっても達成感と大きな自信になっています。
大変だと感じる事は時折あっても、嬉しい事も多々あり、JENで働いている時が一番幸せです。



ニーズ調査を終えたプロジェクトリーダーたちと事業内容話し合っているところ。



南スーダン

コミュニティと共に学び、 私自身も成長できました

ベジュール・ノエル・モディ

Q1:野菜。特にオクラが大好き Q2:家族や友達と出かける。読書
Q3:一生懸命に向き合えば、成し遂げられないことはない

JENで働き始めた日は、私にとって素晴らしい瞬間でした。新しい仕事に緊張した私を、同僚は(全員が初めて)出会う人たちはばかりでしたが、とても温かく迎えてくれました。皆は、自分たちのスキルを共有し合い、チームのことを一番に考えていました。井戸をコミュニティ自身で維持管理できるように仕組みを構築する中で、地域の行政やリーダー達と一緒に仕事ができることも楽しく、私自身のスキルと能力を高めてくれます。井戸修理工育成のための研修を行った当初、参加者の多くは高等教育を受けていないので、研修の内容を理解できないのではという不安がありました。ところが実際は、10日間の研修の間、参加者は、学ぶことに非常に熱心でした。今では、知識と技術を兼ね備えた熟練修理工です。
また、この事業は、人びとの誤った固定観念や意識の変化につながりました。JENの現場スタッフが実施した様々な啓発活動や、学校への手洗いの設置、井戸の維持管理のしくみづくり構築などによって、人びとは、安全で清潔な水を継続的に確保できるようにになりました。皆が学ぶ意志を持ち合わせていたことも、変化につながった理由だと思います。私は、コミュニティと共に学び、成長できるこの仕事が大好きです。



井戸修理工の研修生たち(後ろ左端:ベジュール)。

ハイチ

JENは、私にとって もっとも人道的な職場です

ルドビック・ブランコ

Q1:ヒラメのスパイス焼き Q2:素潜り漁
Q3:試験によって人は強くなれる

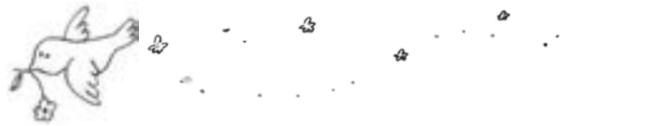
私は、フランス出身です。JENに入局する前も人道支援機関で働いていました。この分野でキャリアを積みたいと確信したとき、JENに出会いました。スタッフとの交流を通して、人道支援に対する私の理想像が具体化していき、ハイチ事務所で働く事を決めました。JENの第一印象は、現地スタッフとの距離が近いということでした。JENハイチのように小さなチームで働いていると、一人ひとりが、なぜこの仕事を選んだのかを再確認できます。スタッフと地域住民との距離も極めて近く、活動を通して交流が増え、彼らともより良い関係を築くことができます。私にとって、これは相乗効果で、新しい文化への窓が開かれると感じています。(これは、私にとって一番大切なことなのです。)ハイチ事務所と東京本部との関係も家族のように感じています。現地の人々から、私は日本人なのか、日本語を話すのかと時々尋ねられます。きっと、日本語を話さない私が何故、日本のNGOで働いているのかが不思議なのでしょう。そんな時、私は大抵次のように答えるのです。「最も人道的な職場を私は見つけました」と。
最後に私が尊敬する先生の名言をご紹介します。「それが良いとか、悪いとか、そういう事じゃないんだよ。ただ違いがあるだけさ」。



(上)その日達成したことや、課題について話し合う、振り返りミーティングは日課。

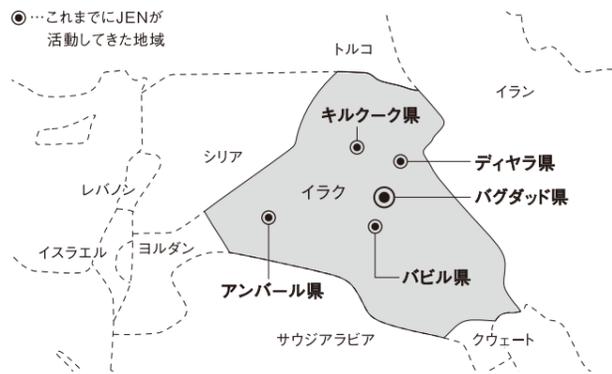
(下)給水施設の建設現場にて、定期的に作業員から進捗をヒアリングします。





イラク周辺地図

首都バグダッドから始まった活動も、今は5つの地域に広がった。



イラク年表

- 1988年 イラン・イラク戦争終結
- 1990年 イラク、クウェートに侵攻
- 2003年 3月 イラク戦争開始
- 4月9日 アメリカ・イギリス両国により、バグダッド陥落
- 4月20日 JENヨルダン現地にて調査開始
- 4月26日 バグダッドにて緊急支援開始
- 5月2日 アメリカによる戦争終結宣言
- 2006年 宗派間の争いが激化
- 2011年 アメリカ軍撤退
- 2013年 治安当局と反政府組織の武力的対立激化
- 2014年 治安情勢更に悪化



先生から歯磨きを習う女子生徒たち。(2010年キルクーク)



JENが教育省と開発した卓上ゴミ箱を受け取った生徒たち。(2013年バグダッド)



手洗いの実践も楽しみながら。(2010年キルクーク)



小学校の再建では、子どもたちが楽しく通えるよう、学び舎がカラフルにペイントされています。(2006年バグダッド)

JENは2003年にイラクの緊急人道支援活動を開始して以来、教育環境の再建を通して、地域の復興に貢献してきました。イラク北部では、武装勢力との衝突が止まず、住みなれた土地を追われた170万人以上の一般市民が、日常生活に最低限必要なものさえ不足している状況下での生活を余儀なくされています。

イラク

国内各地でテロが相次ぐイラク。今こそ、継続的な支援を。



イラクの歴史は古く、イスラム教のシーア派、スンニ派といった異なる宗派、キリスト教やクルドに代表される少数民族など、異なる民族や宗教を信仰する人びとが違いを互いに尊敬し合い共に暮らし、暮らしてきました。独裁的な政治のタカが急に外れた後は汚職や暴力が横行し、宗派の違いによって職を得られないなどの差別が目立つようになり、人びとの不満が募るようになりました。

イスラム原理主義に基づく国の樹立を掲げる武装組織が、北部の都市モスルを占領し、シーア派、スンニ派、その他の宗教・宗派の違いによって殺戮が起こる事態に陥りました。北部の少数民族ジャズドの人びとも、クルド人少数民族としてこうした宗教慣習の違いから迫害を受け、行き場を失っています。2014年8月には、とうとうこの武装組織は、『イスラム国』の樹立を宣言するに至りました。

一方、バグダッド市民の約20〜30%を占めるスンニ派の人びとはシーア派からの報復を恐れ、自由に市内を出歩けない状態にあります。誘拐されたり暗殺されるケースが増えているからです。

イラクの経済活動も危機的状態にあります。バグダッド市内では、テロ行為や襲撃を恐れて多くの商店が閉鎖におこまれ、人びとは仕事を失っています。バグダッドへと続く多くの幹線道路が武装組織との衝突や占領下に入るなどして、安全に通行することができない状況が続いています。そのため、物流が麻痺し、バグダッドに入る物資が激減。物資不足が市民生活の大きな問題になりつつあります。

JENのバグダッド事務所は、シーア派、スンニ派、キリスト教徒など、宗教・宗派を超えた者たちで構成されています。彼らは日々変化する治安状況に応じて、事業地を変更せざるを得なかったり、通常より時間をかけて慎重に事業を進めるといった状況にあります。「復興と自立」というひとつの大きな目標を達成するために協力しあつて活動を続けていますが治安の悪化に伴い復興のスピード



バシム・ユスフ・ヤコブ

- Q1:お魚
- Q2:読書、TVでスポーツ観戦 (治安の悪化でなかなか外出できないのです)
- Q3:何をするかじゃない、どれだけ愛をもってするかが大切なのです。



衛生教育のワークショップにて。

関わった人びとからの感謝が私の原動力です。

自分が今持つ技能を磨き、目標のために新しい挑戦をすることで、人は障がい乗り越える術を学ぶことができます。私は信じています。それは意思のある限り年をとっても取り組むことができると思っています。JENで働く事は、毎日が新しい学びの連続で、仕事で関わった人が私に感謝してくれる事が、もっと学びたい、もっと自己の能力を高めていきたいと思う原動力となっています。

私は、事業を進めていくうえで携わる者すべてが納得を得られるよう、コミュニケーションを大切にしています。また、事業のすべてのステップで、全員の合意を得るよう努めています。我が国で今起きているように、刻々と治安状況が変化する中では、事業を実施する上で様々な工夫をしながら、進めていく必要があるからです。

我が国の教育環境を改善する活動を通して、国の復興に貢献しているJENの活動を支えてくださっているすべての人びとに、深く感謝いたします。

スタッフへの3つの質問! Q1:好きな食べ物? Q2:休日の過ごし方は? Q3:座右の銘(モットー)は?

一日でも早く、イラクに平和を。緊急募金を受け付けています。

支援のお願い
郵便局、またはJENホームページからクレジットカードでもご寄付いただけます。

〒 郵便局からご寄付いただけます。
○郵便振替口座 00170-2-538657
○口座名 JEN

インターネットから、クレジットカードでご寄付いただけます。
○URL www.jen-npo.org
○VISA、MASTER、JCB、AMEX



修復が進む学校。(2006年バグダッド)



が遅くなってしまうこと、学校に通うことが習慣になった子どもたちが再び登校できなくなってしまうことを懸念しています。

イラクの国内避難民の中には、難民キャンプだけでなく、国内の比較的安全な地域に逃れている人びとも多くいます。避難先でできるだけ安定的に避難民が生活するために、国内避難民と避難民を受け入れるコミュニティへの支援が欠かせません。

今そうしたコミュニティでは、国内避難民の子どもたちが避難先で通える学校への支援ニーズが高まっています。もともと復興途中の教育施設に、多くの難民の子どもたちが入ることによって、学校の教室、施設が足りなくなっています。教育を受ける機会の空白を作らないためにも、この分野の支援が求められています。

JENでは、こうしたニーズに応えられるよう、これまでイラクで行ってきた学校修復や衛生教育の支援活動のノウハウを活かし、国内避難民を対象とした緊急支援の準備を開始しています。



教育環境を整える 女性エンジニアの活躍

シリア難民の避難先となっているヨルダンで難民流入が本格化した2012年、活動の中心は12万人が暮らすザータリ難民キャンプでの緊急支援活動でした。一方、ホスト・コミュニティ(街の中)で暮らす難民への支援は手つかずでしたが大半の難民がホスト・コミュニティで暮らしていることや受け入れ側の地域の負担が増加しているといった現状が明らかになるにつれ、難民キャンプ内で活動する支援団体の間でも、現状把握と対応について話し合う機会が増えています。

JENは2012年9月の活動開始直後から、ホスト・コミュニティの公立学校に対する緊急支援を行っています。当初は、転入生を受け入れるために必要な環境整備のうち、水衛生設備の修復に特化していました。現在は、シリア難民の子どもの急増に伴い、教室の増設工事も行っています。アンマン事務所の現地スタッフで、エンジニアチームのリーダーであるイナスは、水衛生設備修復を始めたころからJENで働いています。「女性エンジニア」というキャリアに驚きましたが、ヨルダンでは、それほど珍しいことではありません。エンジニアに限らず、様々な分野で女性が活躍し、社会システムの中で重要な役割を担っています。アンマン事務所のマネージャーも半数以上が女性です。一方で、ヨルダンが女性にとって働きやすい国かという点に若干の懸念はありますが、特にイナスのように、学校建設の活動では、建設会社との折衷な



公立学校の教室。30人だったクラスが50人になるケースも。



増設される教室のコンクリート打ちの様子。ヨルダンは日差しが強いので早朝か夜に行われることが多いです。エンジニアも、もちろん同行します。

どで頭を悩ませています。それでもイナスは、今の仕事が大好きで楽しく働いています。「支援を必要としている学校で、より良い活動になるように工夫し事業を行い、そして、学校に喜んでもらえる瞬間はいつも感動するの！」と言います。だからこそ、仕事のクオリティには厳しく、手を抜こうとする事業関係者には容赦しません。イナスの両親は、60年代後半にパレスチナから難民としてヨルダンにやってきました。両親は、イナスをパレスチナ人として育てましたが、本人は生まれ育ったヨルダンに愛着があると言います。パレスチナ難民の二世三世は同じように感じている人が多いようです。シリア危機は4年目を迎えました。シリア難民の子どもたちが大人になるとき、彼らが暮らす場所がどこであろうと、イナスのように自分の人生を歩んでいけるよう、JENはこれからも支援を続けていきます。



イナス・アルナジャー

- Q1:マカロニ
Q2:勉強(大学院に通っているので)
Q3:自分の信じる道を行く

スタッフへの3つの質問! Q1:好きな食べ物? Q2:休日の過ごし方は? Q3:座右の銘(モットー)は?



モノづくりで 女性たちの心の復興を

石巻では、東日本大震災復興支援として、モノづくり支援を通じた女性のエンパワメントを行っています。2011年秋、完成直後の仮設住宅では様々な心のケアの活動を行いました。モノづくり支援もそのひとつです。このプロジェクトは、モノづくりを通じてひとりひとりが心の復興をとげること、特に女性のエンパワメントからの復興を目指しています。活動を通じたネットワーク構築、活動する場の提供、「石巻の手づくり市&体験会」の開催など、モノづくりから販売まで、住民が中心に企画運営できる体制の構築と収入創出が目標です。第1回目(2013年)は、出店した10団体(個人含む)のうち8割が販売未経験者でした。自分の作ったモノが売れるという喜びや生きがい、達成感を出店者が実感できる機会になりました。これまでに5回開催しましたが、最近では「自分たちが主催・運営している」という出店者としての意識改革が見られます。この変化は、2013年9月に始めた「出店者会議」が大きく貢献しています。会議では、次の手づくり市のテーマや会場レイアウト、集客方法などイベント運営について話し合います。また、継続するために販売者としての心構えや商品企画、接客マナーなどについて学ぶセミナーを開催しています。個々のスキルアップをサポートし、主催者としての自主性を高め独自の工夫を始めると同時に、出店者間の新たなネットワークを形成してきました。5回の開催を経て、来場者数は1.4倍、総売り



「浜へ行こう!」祭りの様子。みこ舟に乗せて湾内をまわり海へ感謝します。



手づくり市の来場者が楽しそうにお買い物中。

上げは2倍以上になりました。月に一度の販売会は、モノづくりと販売に参加したい女性の窓口にもなっており、開催を重ねることに参加団体も増え現在は40グループを超えています。現在、これまでも異なる会場・運営方法での開催を予定しています。9月は「道の駅」で、11月には市内のショッピングセンターでの販売会を予定しています。いずれも来場者数が多い場所なので、出店者たちにとっては、これまで以上の準備協力体制が求められる新たな挑戦の場となります。JENは、モノづくり支援を通して、出店者である女性たちが社会参画の機会を得ること、復興にむけた生きがいとなることを願っています。



杉浦 達也

- Q1:お肉!(海産物は満ち足りています)
Q2:買い物、掃除、ダイエット・ジム
Q3:人生一回、きゅっかけつくり

牡鹿半島では地域体験プロジェクト「浜へ行こう!」を開催しています。今回は12月開催予定。復興に取り組む住民と交流しながら、ニュースでは知りえない現状を実感しにいらっやしませんか。

事務局長木山啓子とJENスタッフの 往復書簡



建設中の学校 校舎建設前の学校

況にある人々のニーズに応えるために、やらなければならないことは膨大で、まだまだ道のりが残っています。現在、バルワン県で学校衛生や学校運営の分野で活動している団体はJENを入れてもたった5団体で、教育分野の復興のための資金も不足しています。しかし、この活動が始まったことが、人々の心に希望の灯をともしました。

父親は、大切な娘がより良い未来を迎えるために、教育以上に必要なものはなにもないことを、母親は、自分が教育を受けられなかったことを残念に思っていますが、大切な息子を学校に送ることでかたき討ちができることを、少年や少女は、もし学校に行かなければ、それは家族にとって大きな恥だということを、知っているのです。一人ひとりがこれを知っていることがアフガニスタンの希望の灯なのです。

こうして、アフガニスタンでも、教育は人々の文化となり、家族の誇りとなったのです。

- Q1:プラーオ(魚入りピラフ)
Q2:家族とゆっくり
Q3:小さな積み重ねが、家族や人びとの苦難を幸せに変える



アフガニスタンプログラム
スルヒ・バルサ事務所
シビル・エンジニア
モハメッド ヤスス



修復した女子校の飲み水のタンクに毒を入れられたこともありました。女子教育が完全には賛成されていない状況の中で、モハメッドさんをはじめとするスタッフの皆さんが進んできた道は、決して平坦なものではなかったと思います。それでも、チームの努力が大きな実を結び、13年後の2014年には、先生や保護者のみならず、地域で尊敬されているムッラー(聖職者)や中央政府の教育省までもが、教育支援を中心としたJENの活動に関心を寄せ積極的に協力してくれています。

モハメッドさんがおっしゃる通り、まだまだ道のりですが、希望の灯が輝く光となってアフガニスタン全土を照らす日まで歩んでいきたいですね。これまで皆さんが示してくれた様に、どれほど厳しい状況でも、一步一步進んでゆく努力は、必ず実を結びます。アフガニスタンと日本、遠く離れていますが、一日も早く、治安が落ち着いて、皆さんが平穏な暮らしを送れる様に祈る心は一つです。また嬉しいニュースを聞けることを楽しみにしています。

木山 啓子

モハメッドさん

早いもので、あれから13年が経つんですね。アフガニスタンに教育という希望の灯がともったとは、なんと嬉しいことでしょう。そこに到達するまでのモハメッドさんたちの苦勞がしのばれると同時に、とても誇らしく思います。

2001年、30年近くの避難生活に終止符を打ち、難民となっていた人々が隣国から帰ってきました。戦闘で荒れ果てた母国で、家も、学校も、仕事もない所から復興が始まりました。

大勢の方が、たくさん子どもを連れて帰ってきたので、学校は、生徒で溢返っていました。先生の数も教室の数も圧倒的に足りないで、三交代制で授業を行って、先生もくたくたでした。「ここが学校です」といって見せてくれた写真には、山の斜面の木陰に人々が座っている様子が写っていました。校舎などなくとも、先生と生徒がいる場所が学校なのだ、と教えてもらった瞬間でした。

そんな先生と生徒を支えたいと、JENの学校再建事業が始まりました。砲撃で天井に大きな穴が開いている女子学校を再建する際には、天井より先に扉を修復すると言われ、戸惑いました。文化を理解しているつもりでも、外国から来た私には納得できませんでしたが、アフガニスタンではそれが当たり前だと今はわかります。

「生きるちから
マンスリーサポーター」が
新しくなりました!

2014年8月より「生きるちからマンスリーサポーター」が新しくなりました。より参加していただきやすくするために、1,500円から始められるプログラムに。JENは「生きるちから」を支えていく。をスローガンとして掲げています。人びとが尊厳と希望と自信を取り戻し、みずから立ち上がるちからを持つこと。そして、いざれ私たちのことが必要なくなる。それが、JENの目指す支援です。時間がかかる支援だから、皆さまの継続的なサポートが必要です。「生きるちから」を支える支援に、ぜひご協力ください。

お申し込み特典!

JENや現地のことをもっと知っていただける特典をご用意しました。



ウェルカムキット

支援レポート
(ニュースレター・
年次報告書)

イベントへのご案内

1,500円でできること。
たとえば、衛生教育で...

衛生を学び実践するための衛生キット(石鹸、歯磨きセット、タオルなど)や教科書を配ることができます。

アフガニスタンでは



子どもたち
2人に

ヨルダンでは



ヨルダンとシリアの
子どもたち
7人に

月々1,500円から
始められます!



詳細・お申込みはこちらから <http://www.jen-npo.org/monthly/>

東北の元気な未来のために。
「メモリースピーチコンテスト」に
ご参加ください!

東日本大震災から、もうすぐ3年半が経過しようとしています。JENの支援者の皆さまからも「いま、東北はどうなっているの?」と聞かれる場面が増えてきました。その一方で、東北では、震災後の地域の未来をよくするための多くの取り組みが生まれています。「メモリースピーチコンテスト」は、元気な東北の未来を目指し、さまざまな取り組みをしている方々を一般から募集し、県大会(被災3県)と全国大会(東京)で8分間のスピーチを行います。スピーチはWEBサイトやSNS、動画を通じて広く伝えていきます。ひとりひとりが東北の課題や魅力

「メモリースピーチコンテスト」は、元気な東北の未来を目指し、さまざまな取り組みをしている方々を一般から募集し、県大会(被災3県)と全国大会(東京)で8分間のスピーチを行います。スピーチはWEBサイトやSNS、動画を通じて広く伝えていきます。ひとりひとりが東北の課題や魅力



応援メッセージ&写真も募集しています!
<http://www.jen-npo.org/memory/>

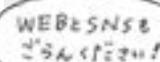
スピーチを聴きにきてください! **参加無料**
メモリースピーチコンテスト

- 宮城県大会** 11月1日(土)
東北学院大学
土樋キャンパス(宮城県仙台市)
- 岩手県大会** 11月8日(土)
盛岡劇場(岩手県盛岡市)
- 福島県大会** 11月15日(土)
いわき芸術文化交流館
(福島県いわき市)
- 全国大会** 12月7日(日)
昭和女子大学80年館
「オーロラホール」(東京都世田谷区)

各日13:00~17:00(開場12:30)

参加のお申し込みは、WEBかお電話で!
○ホームページ: <http://www.jen-npo.org/memory/>
○TEL: 03-5225-9352

Facebook や twitter に「いいね!」&「シェア」
WEBサイトからスピーチ映像にアクセス!



イベント
開催予定

10月4日(土)・5日(日)
会場: 日比谷公園
グローバルフェスタに出展します!
国際協力について、楽しく学ぼう・知ろう!

10月29日(土)~11月3日(土・祝)
会場: 神楽坂まちとびフェスタ(毘沙門天前)
神楽坂でブック・マジック!
読み終わった本などをぜひお持ちください!1冊から受け付けます。



皆さまからのご寄付は、寄付金控除の対象です。最大で約40%が所得税の税額控除となります。

*控除額は寄付金額や年間所得額によって異なります。詳しくはホームページをご覧ください。

郵便局から
00170-2-538657
口座名 JEN

遺贈寄付
ご自身の財産や大切な方の遺産を、JENが支援する世界中の人たちへ、確実にお届けします。

インターネットから
クレジットカードでご寄付いただけます。
(VISA、MASTER、JCB、AMEX)

生きるちから マンスリーサポーター
あなたの毎月の支援で、世界の人びとの、生きる力をサポートします。

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。



特定非営利活動法人ジェン(JEN)
東京本部事務局

〒162-0824 東京都新宿区揚場町2-16
第二東文堂ビル7F
TEL: 03-5225-9352 FAX: 03-5225-9357
E-mail: info@jen-npo.org
ホームページ: <http://www.jen-npo.org>